

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第81号 発行日2012年1月25日

Contents

理事長あいさつ	1
須田氏、横山氏新年のあいさつ	2
霞が関ニュース、氷見市の街づくり	3
アメリカこぼれ話、トラの散歩	4
食にまつわるエピソード、COLUMN	5
城下町と観光、NEW SPOT	6
NPOからの提案、ブータンの話(セミナー)	7
お天気の話、編集後記	8



平清盛ゆかりの厳島神社と海中に建つ大鳥居

小さな仕合せを 今年こそ

理事長 松尾道彦



会員の皆様、平成24年明けましてお目出度うございます。太平洋側はほぼ好天に恵まれた年末年始でしたが、日本海側は大雪に見舞われ、地域の皆様には、本当に御苦勞様でした。

去年は、未曾有の地震・津波の東日本大震災や原発事故、局地的な豪雨による風水害の発生など日本列島が自然の猛威に晒されました。特に原発事故では目に見えない恐怖に怯え、在日外国人の一時帰国や西日本地区への移住などの一方で、世界各国からはタイムリーな温かいご支援をいただきました。日本人が本来秘めている助け合いの精神が発揮され、「絆」も強まり、世界から評価されました。「感謝」、「絆」、「互助」、「共生」、「思いやり」、「家族愛」などの人として持ち合わせている優しい気持が、幅広く日本人全体に大震災を機に浸透し、人のために役立ちたいという人の素晴らしい本質が芽吹いてきました。

それにしても、去年は世界的にも、ニュージーランドでの地震、タイでの洪水被害などの大きな自然災害が続出しました。

本年は、国際政治・経済情勢も大きな変革が予想され、アメリカ、ロシア、フランスでの大統領選のほか、特にアジアでは日本と近接する中国、台湾、韓国、北朝鮮の首脳の交替により新たな緊張関係が生ずるかもしれません。世の中が安定し、普通の日常生活に喜び、生きがいを感じ、国民が安心して旅

ができる環境が欲しいものです。特に被災地に早く真の「北国の春」が到来することを期待して。

品川・田町間に新駅を建設

沿線の新しい街づくりを

JR東日本は、新駅の建設を平成24年に品川から北へ約1キロの港区高輪付近の品川車両基地内に計画しており、東京都など関係機関と新しい街づくりも含めて対応する。平成25年度末には宇都宮、高崎、常磐各線と東海道線を結ぶ「東北縦貫線」の開通が予定されており、15ヘクタールが不要になるので、その跡地に商業施設などを建設する計画である。

千葉県の人口が減少に転じる

一時的か、長期的か判断困難

これまで東京、神奈川、千葉、埼玉の東京圏の人口は、増加してきたが、平成23年の千葉県の人口が減少に転じ、首都圏でも団塊世代の定年退職による地方への移住などが課題となってきた。神奈川、埼玉県でも一部で減少している。千葉県の人口減少は、柏、松戸市などや市川、浦安市の人口減少が大きな要因と見られる。浦安の場合は東日本大震災で液状化の被害が深刻で、かなりの人が他の地域に移住したと見られる。千葉県はこの人口減について「一時的か長期的か判断できない」と言っている。



3分野を一冊の本にまとめた意欲作品
「そこが知りたい 観光・都市・環境」

お問い合わせはJAPAN NOW観光情報協会

「新しい観光」で日本を元気に

東海旅客鉄道相談役・須田寛氏



昨年は東日本大震災で日本の観光は大きい試練を受けました。観光は人的交流を促進し文化の生成発展をはかる文化活動であり、また人の移動に伴って大きな経済効果を生む重要な経済活動でもあります。今年こそ「観光立国」を実現し、日本経済の再生をはからねばなりません。

低迷している観光を振興するためには観光形態の変化、観光ニーズの変化に対応して、従来の観光から脱皮した「新しい観光」を展開する必要があります。

即ち、第一にいわゆるニューツーリズムともいうべき全く新しい観光方式、観光資源を開発すること（ヘルスツーリズム、エコツーリズム、スポーツツーリズム等）。

第二に新しい角度（テーマ）から観光資源を見直して、その魅力を再発見するテーマ別観光（産業観光、街道観光等）の推進。

第三に在来型観光を新しく再編成すること（食の観光、新温泉観光等）であります。

以上の観光に取り組むと共に、観光産業（旅行業、宿泊業、交通事業等）が経営を効率化して観光コストの低減をはかり、参加しやすい観光とすることも求められます。

震災後、いわゆる風評被害に各観光地は悩まされ続け、観光にとって適確な情報発信が如何に大切かをあらためて痛感させられました。上記の「新しい観光」はいずれも適確な情報発信—それも着地からの—によってこそ、その成果を得ることができるものと思います。

事務局より新年のごあいさつ

昨年の東日本大震災という大きな出来事が解決されず、皆の心に残っている新年になりました。

JN協会は会員はじめ沢山の皆様に支えられて機能しております。

今年も月1回(第2金曜日)のセミナーを多彩な講師をお迎えして海事センターで開催しています。

また第3金曜日夜方には、事務局でジャンルは関係なく手作り料理をつまみながら懇談する場を設けています。会費は1,500円です。気軽に話すことによって良いアイデアが生まれそうな気がします。

その他、見学会なども随時開催し新しい情報も充実して行きたい思います。

事務局は土日を除く毎日オープンしています。皆さまも、お気軽にお立ち寄りください。

心のこもった交流をめざして、今年も事務局一同活動をして参りますので、よろしくお願ひいたします。
(理事・堤るり)

年末年始雑感

元(株)JALUX特別顧問・横山善太氏



阪神大震災に遭遇してから今年で17年になります。

その日早朝、芦屋のマンションでは建物には殆ど被害はなかったのですが、小生は不覚にも足に大火傷をした。熱した豚汁によるものだ。2日目の午後、芦屋脱出の為、大渋滞の中、会社が手配して呉れたタクシーの待ち合わせ場所である西宮まで歩くことになった。松葉杖に子犬連れ、荷物は家内がカートを引くと云う難民家族姿で被災した人々と行き交う、出会う人々の表情は優しく、“難儀なことやな、お元気で！”と語り掛ける様であった。何故かと考えを廻らしてみると、そうだ、あの時と同じなのだ、と思い出した。それは、その時から50年前、昭和20年7月のことであった。

疎開先の大阪浜寺が空襲により全焼、海岸に逃れた後、奈良の山奥に再疎開することとなった。南海電鉄難破駅から近鉄上六駅まで警戒警報の最中、歩いた時のことである。逃げ迷う人々、警報の音、捜し求める絶叫の騒然とした状況でも、眼を合わせる人々は皆一様に優しい。子供の眼線に労るのであるうか、兎に角“大丈夫？頑張ろうね”と声を掛けている如しであった。芦屋から西宮に歩きながら、50年前と同じだと思った所以である。

人々は同じ災禍に見舞われると気持ちが優しくなるのでしょうか。それは人の気持ちが良く分かる、つまり自分の気持ちを投影すれば、そのまま他人の気持ちになる分かり易いことだからなのでしょう。絆とは、この断ち難い程の寄り添う気持ちなのでしょう。だから、自分の安心立命となり、そして、やがて他者の安心立命の支えとなる役割に繋がることが期待されているのでしょう。

日本人の生き方が見直されつつ有ります。集団で生きる、その中での自己責任との調和を図ってゆくのが適当なのでしょう。西欧型個人主義の移入は、明治以降想いはあっても、結局馴染めなかったのではないのでしょうか。「三四郎」は日露戦争後、日本が一等国になったことから、これから段々発展するでしょうと板の上の雲を夢見たところ、漱石は「亡びるね」と一刀両断した。産業主義などハコモノを取り入れながら、個人主義の移入が出来ていないことを論評したのである。そして「三四郎」は迷ったのであります。その姿をストレイ・シープ(stray sheep)と蔑まれて以降、百年経っても辿り着いていないのは無理があるからでしょう。

そこで今年あたりを「絆と自立」の元年にしてはどうかと思うのであります。

東京 霞が関の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

井之上パブリックリレーションズ常務取締役 皆見剛（みなみる・ごう）

東京都立川市出身。68年3月早稲田大学法学部卒。広告代理店5年、マーケティング会社5年。78年12月井之上パブリックリレーションズ入社。取締役を経て00年4月現職。65歳。



ー2010年9月から中国語情報サイトの「日本新聞網」(www.ribenxinwen.com)で特集企画「魅力の日本～

お国自慢ベスト3」を始めました。どんないきさつで観光の情報を流すのですか？

日本新聞網はアジア通信社の徐静波社長が始めたものです。徐社長は日本の情報をネットで中国語で紹介しようと約1年前に始めたものです。私の会社はこのネットに広告を集めようと協力しています。そうした時にネットの魅力を高めるために観光情報を中国の人たちに紹介するために始めたものです。中国からの観光客のビザ（入国査証）が2010年7月から緩和されて日本への観光客は増えています。観光庁のデータによると1-5月の訪日観光客は昨年同期に比べて36%増えています。今年の1年間で150万人になると推定されています。中国からの観光客のお金の使い方は韓国や欧米の客より多いです。こうした観光客に日本の観光情報を紹介します。

ーどのような内容になっていますか？

全国の1都1道2府43県からお国自慢を3つ選んでもらってそれを紹介します。気候とか面積、県の花などの基本データとお国自慢を紹介します。たとえば静岡県などは富士山、お茶、温泉となっています。そこに写真を1枚載せます。この掲載は無料なので各県とも協力していただいています。県によっては中国語で書いて来て、それをアジア通信社にそのまま送って載せているところもあります。各県とも中国に対してのアプローチは熱心です。こうしたデータは3カ月に1回は新しいものに変えてゆきます。

ー県によっては中国の人たちに特集を組んで紹介しようとするところも出てくるでしょうね。

そうした場合は無料ではなく有料にしてゆきます。将来は観光情報だけでなく企業に対してのM&A（合併と提携）の情報なども取り扱っていききたいと思っています。

ーいろいろなことをやってゆくようですが、媒体としてはどの程度の人が見ているのですか？

月間で30万ページビューです。日本からの政治、経済、文化の情報が中国語で流れています。日本からの情報を見られるネットとしては一番大きいのではないのでしょうか。中国ではインターネットの普及は3億8千万世帯に広がっています。そういう意味では、このネットを有効に使えば大きな武器になると

思います。

ー井之上パブリックリレーションズとしては中国との仕事はどのようにしてゆきますか？

このネットとの関係ができたのでいろいろな仕事を増やしてゆきたいと思っています。中国事業支援室を作り、中国へ進出したい日本企業のお手伝いをしたり、逆に日本へ進出したい中国企業のお手伝いもします。これから楽しみな仕事で、私が室長をして陣頭指揮をとります。

（聞き手は経済ジャーナリストの阿部和義）

「食」と「まんが」テーマで街づくり 富山県氷見市 水産都市の状況を見る

能登半島の東側の付け根に位置する富山県氷見市は、水産都市として全国に知られている。その氷見市は「食」と「まんが」という意外なテーマで街づくりに取り組んでいる。氷見漁港には、天然のいけすと呼ばれる富山湾から多くの種類の魚が一年を通じて水揚げされており、冬場の「寒ブリ」は消費者に人気がある。漁港内にある道の駅「氷見フィッシャーマンズワーフ海洋館」は新鮮な魚を求める観光客で賑う。

最近では東海北陸自動車道が開通し、中京圏からのお客が増えているが、市全体への誘客とはなっていない。氷見市は「買い物客」が「観光客」となって街歩きを楽しんでもらうため、「食」だけでなく、まんが「忍者ハットリくん」の生みの親である藤子不二雄氏のまんがが、展示されている。

街全体でエネルギーを効率よく利用 「スマートシティ」への関心高い

「スマートシティ」とは、環境技術やITを使って街全体でのエネルギーを効率よく利用することで、エネルギー問題への関心の高まりから開発が全国的に広がっている。経済産業省が認定した実証実験が愛知県豊田市などで始まり、パナソニックなど企業主導の事業も進んでいる。スマートシティでは、住宅やオフィスに省エネ機器を設け、太陽光などの自然エネルギーも活用して節電や二酸化炭素の排出削減を図る。

「スマートシティ」は、主なもので24のプロジェクトに達し、1兆円市場になるだろう。豊田市では、トヨタ自動車などと連携して電気自動車（EV）を含めたエコカー約4000台の普及を目指す。このほか横浜市、京都市、大阪市、北九州市でも計画が進んでいる。民間では、パナソニック、大和ハウス、三井不動産、日立も事業に取り組んでいる。

EV・PHVが走るまちのシンポ 国交省や経産省が京都で開催

国土交通省、経済産業省は昨年2月4日、京都で「EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリッド自動車）が走るまちシンポジウム」を開いた。日本では少子高齢化社会や地球温暖化が進む中で誰もが安全・安心に暮らせる低炭素社会の実現が課題となっている。この課題を解決する有効な手段としてEVやPHVの普及が必要であり、今回のシンポジウムでは、こうした問題点を取り上げて対応策を考えることになった。

アメリカ・こぼれ話 ⑪

「キング牧師と“風と共に去りぬ”」

JN協会理事 北村 嵩

マーティン・ルーサー・キング・ジュニアは良く知られているように、非暴力直接行動という、かつてない闘争体系で公民権運動を指導し、後にノーベル平和賞を受賞した黒人の権利回復運動指導者である。1955年にアラバマ州モントゴメリーで始まったバス・ボイコット運動を指導し、成功させたことを皮切りに、数々の教育や公共施設での人種隔離廃止運動に影響を与え、黒人のみならず白人リベラル派からも共感と支持を受けた。1963年リンカーン大統領による奴隷解放宣言100周年を記念して行われたワシントン大行進での20万人を超える大群衆に向けてリンカーン記念堂で行った、人種の平等を訴えた“I have a dream!”という感動的な演説は後世に残る名演説といわれている。

一方、“風と共に去りぬ”は1936年にマーガレット・ミッチェルによって書かれたベストセラー小説で、発売後6ヶ月で100万部を売りつくした。南北戦争前夜に始まり、戦争を通して、戦後の再建時代まで描くこの小説は、偉大なロマンス小説であるとともに、当時を正確に描写する歴史小説であるという定評がある。3年後の1939年に上映された映画が大ヒットしてアカデミー賞を獲得したことで相まって、世界中に熱烈なファンを持つ物語であるが、描かれた黒人奴隷の姿をめぐる様々な論争を引き起こし、黒人の間では大きな批判や波紋を巻き起こした。善良な白人農園主に忠実な黒人奴隷の姿は見る

に忍びないと感じ、読者に白人と黒人の関係の一つの幻想と神話を作り上げたとの批判が沸き起こっている。この、黒人の間では評判の芳しくない“風と共に去りぬ”とキング牧師の間には、思いがけない接点があった。1939年12月に世界に先駆けてアトランタで開かれた映画のプレミア・ショーには多くの出演者が集まり、当日の15日は休日となり、アトランタ市民は13日から祝典を開始し、市民は南北戦争当時の服装で参加することが奨励された。祝典行事の一つとして開催された前夜の舞踏会には6000人の参加者が戦争当時の軍服やイブニングドレスを身に付けて集まり、近くのバプティスト教会の黒人聖歌隊が全員奴隷のコスチュームを身に付けてコーラスを唄った。この中の一人が当時10歳になるマーティン・ルーサー・キング・ジュニアであった。父親がこの教会を主宰する牧師だったために聖歌隊の一員として参加したのである。黒人奴隷の服装をして白人観衆の前で歌を歌った少年が、後に黒人の差別撤廃の先頭に立って戦う公民権運動の指導者になる。不思議な感慨を覚える。

トラの散歩

小田急電鉄(株)顧問 利光國夫

(元小田急グループCEO)

もう二十年以上前のことになるが「関東寅年会」なるものが発足した。これは「大阪経済倶楽部」という組織を運営していたH氏の呼びかけによるもので、昭和十三年寅年生まれの上場企業の役員であることが会員資格というユニークなものだった。隔月に一回夕食会を開催して会員相互の親睦を図るという目的で、異業種交流会のようなものである。当初は百人近い員数が集まり、会員が交替で講演をしたり外部から講師を招いたりして中々活発な滑り出しだったが、現役の役員で多忙なこともあって徐々に出席者が減少し、更に年月の経過とともに現役を退く人が増えて例会も参加者は減る一方となった。このリタイア組を中心に数年前から「トラ年フェロシップの会」が発足し、せっかくの縁をお互いの老後に生かそうと活動を開始した。

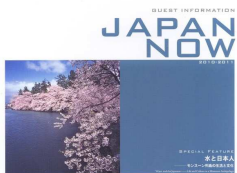
毎月一回昼食会を例会として、新年会、納涼会、忘年会、ゴルフ会、カラオケ会などがあり、昨年の大震災には義援金募集も行っているが、一昨年から新たに散歩の会を楽しむことにした。十月の秋晴れの下第二回の散歩は目白駅に集合、学習院、日本女子大訪問からスタートしたが、両校とも学内に足を踏み入れたのは初めてで、特に後者の「ポンジョ」は学生時代に合同ダンスパーティの相手だったから懐かしかった。次いで鬼子母神、和敬塾、旧細川侯邸、芭蕉園、野間記念館など東京に生まれ育った身でも初めて訪れるところばかりで興味深かった。

お金や時間をかけなくても一日だけの旅の楽しさを実感させてくれたトラの散歩、参加者一同終点地の蕎麦屋で痛飲し、次回を期して解散となった。

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。



現在2010-2011年度版を発刊、日本全国のホテル約100館、55000の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2010-2011年度版では、環境をテーマとした特集において「水」を中心に育まれてきた日本の暮らしのなかの伝統的な環境保全技術や自然とのかかわりを取り上げ、その将来への応用の可能性を探りました。また、巻頭インタビュー・ページでは、インテリアデザイナーの内田繁氏と女優の緒川たまき氏にご登場いただいています。

1部2000円（送料別）で購入できます。

お問い合わせは（株）ジャパン・ナウへ。

電話 03-5155-8940/FAX 03-5155-8941

食にまつわるエピソード

花を食べる習慣

大島 慎子(筑波学院大教授)

現代ではハーブが流行しているが、端午の節句には菖蒲とヨモギをお風呂に浮かべて「菖蒲湯」、冬至には柚子をお風呂に浮かべて「柚子湯」と日本人の生活習慣には昔からハーバルバスが活用されていた。花も昔から活用されており、見合いの席などでは桜湯が定番であり、これもハーブティーの一種である。菊の花も付け合わせの飾りというよりも酢漬けで食べる習慣があったと思う。我が家では「菊のり」と言われる「干菊」を保存食として置いてあり、味噌汁や菊ずし、酢の物に入れたりする。菊の薬効は古くから強心作用、頭痛、肩こり、眼精疲労などの効用が認められているが、現代は、眼精疲労にはブルーベリーなど、西洋のものが持て囃されている。

さて、食用の花としてエディブルフラワー (Edible Flower) が流行の兆しをみせている。欧米の食用花は、バラ、パンジー、スイトピー、キンセンカ、コーンフラワー、ラベンダーなど多種多様である。ケーキやゼリーに入れる、サラダに入れるなど様々であるが、日本の場合は、食べられる花でも、食品として栽培されたものだけが、食用花となり、青果物として青果市場での取引である。食用花は、食品衛生法の規制を受けて栽培にあたり、使用する農薬や使用時期、残留農薬量などに厳しい制限

がある。

花に関してはフィトセラピーという植物の力で心身を癒す方法が研究されている。15年ほど前にバーデンバーデンのホテルのスパで、風呂に薔薇の花弁を入れ、飲み物もハーブ系という一週間の健康改善メニューを見て、この言葉を知った。オーストラリアの先住民アボリジニにも花を浮かべた水を一日放置し、それを飲んだり花を燻して香りをかぐ等の療法があるそうで、植物の力で自然治癒力を高めることは、洋の東西を問わず行われてきたのである。

日本人は花が美しくも散ることに「もののあはれ」を感じてサクラを愛でる。一方、西洋では霊力があるハーブや殺菌力のあるハーブなど色や形が異なる花を同心円状に重ねたジオメトリックな花束をつくり、家に飾ったり外出時には魔除けの意味で手にしたりする習慣がある。花の利用法は色々なのである。



C O L U M N

懐かしのシンガポール駅

2011年6月30日深夜、マレー鉄道最終列車がシンガポール・タンジョンパガー駅を離れ、1世紀以上に亘って市民から愛された駅はその使命と役割を終えた。そのニュースを聞いて一瞬言い知れぬ寂寥感が心をよぎった。

石造りの古色蒼然たるあの駅をこれまで幾度利用しただろうか。マレー鉄道には殊のほか愛着と心躍る思い出がある。タイの首都・バンコックからタイ鉄道を乗り継ぎ、マレー半島南端のジョホール・バルからコースウェイ（土手）を走行し物思いに耽っていると、列車はまもなく23km離れた中心街の終着シンガポール駅へ滑り込み、バンコックから始まった長い1800km余の旅はジ・エンドとなるのだ。コースウェイ上を海の風に吹かれるままデッキに立ち、旅をともしたシンガポール陥落作戦の元戦士が興奮して語る、日本軍の勇ましい勝ち戦にしばし耳を傾けたこともある。

シンガポール側の国境近くの小高い丘から眺めると、カーブを描きながらシンガポール島（旧昭南島）入りする長く連なった列車は、海上のコースウェイとの絶妙のバランスとも相俟って一幅の名画にも喩えられる。‘Yes? or No?’ と第25軍司令官・山下奉文中将がパーシバル・イギリス軍司令官に降伏を迫ったとされるブキッ・ティマの丘を通過する頃には、シンガポール攻防戦の苦難を思い、残り少ない旅路の果てに想いを馳せ、しみじみと感慨が湧いてくるのである。

2010年線路用地がマレーシアからシンガポールへ返還されてシンガポール領内のマレー鉄道の廃線が決まり、もはや鉄道がここを通ることはなくなった。著しい経済成長を遂げているシンガポールは、今跡地の効率的な活用のため駅周辺の土地開発計画を模索している。だが、急速に高まった鉄道ファンの声を無視することはできない。駅舎は国定史跡に指定され、鉄道用地の一部には緑地の遊歩道を残すことが決まっている。距離が短かったためにシンガポール市民の鉄道利用者は少なかったとは言え、郷愁をそそる鉄道の重厚な伝統と素朴な魅力は俄かには捨て難いのだ。

1942年2月15日、日本中が戦勝気分には沸いたシンガポール陥落からまもなく70年になる。

(近藤 節夫)

城下町と観光 -24

大分県／岡城

作曲家の滝廉太郎が遊んだ岡城

「荒城の月」の曲想を練る

J N協会参与 長宗我部 友親

岡城は、大分県の竹田市にあり、J R九州豊肥本線の豊後竹田駅を降りて、東に2キロほどいったところにある臥牛山に、その石垣などが残っている。豊後竹田駅に列車が入ってくると、「荒城の月」のメロディーが流れることから、この城がこの名曲の舞台だったことがわかる。

「荒城の月」は滝廉太郎が旧制中学校の唱歌の懸賞応募作品として作曲した。滝は子供のころによく登って遊んだ岡城址を思い浮かべて創ったとされる。



岡城への登り口

岡城は、南北朝時代に後醍醐天皇を支持した大友氏一族の志賀貞朝が、古城を改修し、「岡城」と称したと伝えられる。しかし、大友氏は耳川の合戦で島津軍に破れ、志賀氏もこの城を去り、播磨国から中川秀成がその後岡城に入った。

そして、中川秀成は、岡城の大改修を実施し、関ヶ原の役も乗り切った。以降中川氏は、明治4年（1871年）の廃藩置

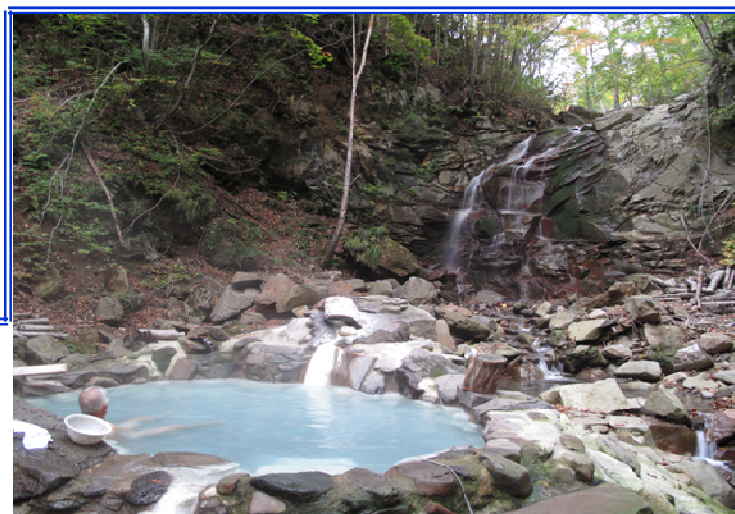


岡城天守閣あと

県まで、13代、ほぼ280年間続く。

岡城は、西側天神山に本丸、二の丸などを造営し、西側に重臣屋敷などがあったといわれる。

城下に当たる竹田市殿町は、現在も改修された土塀が続き、家老職や上級武士らの武家屋敷が残っている。珍しいものとしては、洞窟をくりぬいて造られたキリシタン礼拝洞がある。また市内には、日露戦争時に部下の安否を気遣って、戦死した広瀬武夫中佐を祭った広瀬神社があり、幕末の南画家田能村竹田のアトリエも残されている。



休暇村岩手網張温泉の野趣あふれる露天「仙女の湯」

NEW SPOT

in japan 30

休暇村50周年

国立・国定公園にリゾートホテルを全国展開する財団法人休暇村協会は1961(昭和36)年12月1日に誕生してから50周年を迎え、宿泊者は5千万人を超えた。1号村は62年7月21日、滋賀県に開いた近江八幡国民休暇村(現、休暇村近江八幡)で、北海道・支笏湖から九州・指宿まで現在36村が営業中だ。

設立趣旨は「60年当時の積極的な国民福祉の施策を背景に、国立公園等に国が行う道路、駐車場等の基本的公共施設と並んで、低廉で清潔な宿泊施設を中心とする利用施設を総合的に配備」する「近代的保健休養地」とうたう。設立時の財団法人国民休暇村協会から「国民」を取ってイメージアップし、見る・遊ぶ・体験する旅を提唱する。管轄は71年6月環境庁(現、環境省)発足とともに厚生省国立公園部から移った。

利用増を図るため、宿泊客が周辺の風景写真を投稿する「休暇村三十六景」キャンペーンを2016年3月末まで5年間実施中だ。スタンプラリー形式で6景投稿ごとに600円の利用割引券を6枚プレゼントし、36景全て投稿するとデジタルフォトフレーム(11年度)などの賞品がある。3・11東日本大震災で休暇村も大きな影響を受け、経営基盤強化が課題。一時休業した三陸の2村はすでに一般客を受け入れ、休暇村陸中宮古は夕朝食にバイキングか和食膳などを用意、気仙沼大島は徐々に地元水揚げの魚貝類、食材が食卓に乗っている。

(文・写真 林 莊祐)

NPOから提案します

レディーカガ

JN協会理事

加賀市長 寺前秀一

昨年末YouTubeにオンされたレディーカガが大ブレイクしました。加賀温泉郷の旅館、割烹等の若女将や芸妓等が加賀温泉駅に結集し、宣伝をしたのです。アップと同時に話題になり、私のメールアドレスにも直ちに反響がありました。

加賀市は山代、山中、片山津温泉といった大型温泉地がそれぞれ競争して最盛期400万人の入湯客にまでなったのですが、現在は200万人にまで減少しています。北陸新幹線の金沢暫定開業を契機に「クール加賀300万人構想」を掲げて、個



山中温泉 × 山代温泉 × 片山津温泉 × 加賀温泉 Lady Kaga Project 加賀温泉駅ナカ地区活性化協議会 事務局 加賀市

別の温泉ではなく加賀温泉郷で一体となって東京圏にPRをしようと呼び掛けていた私にとっては、まさにわが意を得たパフォーマンスでした。宮崎県では、一時期、東国原知事の知名度にあやかった観光宣伝が目立ちましたが、それだけに危うさも感じられるものでした。その点、レディーカガの発想は加賀温泉郷の民間の発想から生まれたところにおいて、官の宣伝にはない新鮮さを感じられます。東北の被災者を励ましに来日されたレディーカガさんにあやかっつづかれた点で、一種のパロディであり瞬発力がありますが、持続性の証明はこれからです。レディーカガがレディーカガさんを超えるだけの本物の地域資源を築き上げることができるのかは、加賀市長としても腕が試される時であると思っております。第二弾、第三弾のレディーカガに期待してください。

第73回観光立国セミナー

日本に好意的な国・ブータン

ブータンという国の知名度は、5代目国王ご夫妻の昨年の訪日で、一挙に上がった。

これに先立ち、4代国王が打ち出した「GNH」（グロス・ナショナル・ハピネス＝国民総幸福度）が、「GDP」（国内総生産）という指標が世界的にもてはやされている時代に、一石を投げかけたという点で、知る人ぞ知る国ではあったが…。

そんな国に、JAPAN NOW情報協会の副理事長で、筑波学院大学教授の大島慎子さんが、友人たちと訪れた。その印象を、1月13日の「観光立国セミナー」で、概要次のように語った。

ブータンは、ヒマラヤ山中にある王国で、面積は日本の九州程度、人口は70万人くらい。中国とインドという大国に挟まれ、鎖国のような政策をとっているため、観光客誘致も消極的で、海外への情報流出も少ない。

そんな国が、なぜ親日的かという点、日本が積極的に海外援助（ODA）で、橋などのインフラ充実を進めているからだ。これらの建造物には日の丸がつけられており「壊れない」との評価を受けている。他国が実施したインフラ工事が杜撰のようで、ブータン国民は、その差をよく知っているらしい。

学校教育は、国語のほかは英語が中心で、多くの人が英語が話せる。

国民が着ているものは、国王が着けていた民族衣装が普通で、出稼ぎに来ているインドやネパールの人たちが洋服を着ているので、すぐ分かるという。

食べ物、赤米を香辛料が効かせて料理したものが、多

い。外国人は、ほとんどホテルでの食事主体で、街中でのレストランは探しても少なく、あっても衛生的に「？」のようで、手が出せなかった。ビールは、国産品が2種類、ワインはあまり見られなかった。

街を歩くと、自動車は少なく、信号機は国内には一ヶ所だけとか。その代わりではないが、犬がやたらと歩いている、首輪がついていないので野良犬かもしれない。

それと、やたらあちこちに男性のシンボル（性器）の飾り物が目立った。魔除けらしいが、詳しくは聞きそびれた（私も女性なので）。

もう一つ、びっくりしたのは、建物を作る際に重機類があまり使われず、足場が竹材で組んであることだ。

一人あたりの国民所得は、日本の数十分の一程度だが、国民の大多数が「今の生活で幸せ」と考えている。いわゆる文明の利器とは無縁ともいえそうな生活だが、「幸せって、なんだろう」と考えさせられる旅だった。

次回(第74回)観光立国セミナーは2月10日(金)

「杉原ビザのユダヤ難民を支えた日本の人たち」

～インバウンドの原点を探る～

講師は元JNTOコンベンション誘致部長の北出明氏。東京・麹町の海事センタービルで。昼食付で会費1000円。

このセミナーは、観光問題に限らず話題のトピックス取り上げ、毎月第2金曜日に開いていますので、気軽にご参加ください。

今後の予定—75回は3月9日(金) 講師は小山俊一氏。「福島原発から5km居住者が体験したこと」

【会員募集】 都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

会員の投稿を歓迎します 情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2012年3月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2012年3月25日。締め切りは2012年3月10日。

静電気

服を着替えるときやドアノブを触ってバチッと、時には痛みを感じるほどの静電気に悩まされている方が多いのではないのでしょうか。

衣服が擦れ合って発生するのが静電気で、一年中起きています。しかし梅雨時や夏場は空気中に多量の湿気があるため発生した静電気は、空気中の微水滴に放電され、身体にたまりません。

一方、この時期は空気が乾燥しています。空気中の微水滴は非常に少なく、静電気は放電されずに身体にたまりやすくなります。その結果、物に触れるとあの不快なバチッを感じます。

静電気を防ぐには服の素材の組み合わせがポイントです。アクリルとナイロンの組み合わせは静電気



を発生させやすく、逆にウールとナイロンや絹の組み合わせは静電気の発生が少ないようです。また衣服同士の摩擦をなるべく少なくするために、洗濯のと

きに柔軟剤を使用したり、外出時に静電気防止スプレーを使用すると効果があります。室内も加湿器がなければ、タオルなどを濡らして干しておくだけでも、身体に静電気はたまりにくくなります。

濡れタオルを干しておく方法は、旅先でのホテルの部屋でもできそうですね。

以上

日本気象協会 金野 雅之

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

名誉顧問	： 松山善三(映画監督)
理事長	： 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)
顧問	： 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長	： 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元JALUX特別顧問)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
支部長	： 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麗理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)

【団体会員】(2012年01月25日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)えんれいしゃ、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャントウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマサバパシフィックパブリシティ、三協立山アルミ(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)タイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、医療法人社団同友会、トヨーカネットソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロックジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、ブラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルトロピカル、前田建設工業(株)、(株)ホテルリックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

編集後記

前田国土交通大臣は昨年12月、群馬県のハッ場ダムの建設再開を決定し、東京都、群馬県など事業費を負担する関係自治体に連絡した。これにより、昭和22年のカスリーン台風で利根川が決壊して死者約1,100人の被害が出たため群馬県に総事業費4,600億円のダムを建設することになった。これまでに周辺工事が進み、残すところは本体工事だけとなっていた。東京都知事や群馬県知事は「工事再開を歓迎する」と喜んでいるが、民主党は選挙で公約した「コンクリートから人へ」のマニフェストが総崩れになった、と悲鳴をあげている。

ハッ場ダムの周辺は、温泉もある観光地としても知られ、ダムが建設されれば首都圏から観光客も訪れて発展が期待されている。選挙で公約したことでも「時と場合によっては、軌道修正が必要」というのも一つの政治だろう。

(白澤)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長：白澤照雄(JN協会事務局長)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、

地方自治体、民間企業、マスコミなど